

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472000120		
法人名	医療法人(社団)佐藤病院		
事業所名	グループホーム ながしま		
所在地	三重県桑名市長島町福吉268		
自己評価作成日	平成 21年 10月 10日	評価結果市町村提出日	平成22年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472000120&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 11 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびりとした生活を支援して、その人にあった日常生活を送れるようにしている。医療機関及び、老人保健施設との連携において、協調性をはかっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療療養法人が、運営する病院、老人保健施設、高齢者生活支援集合住宅の一角に3ユニットの事業所があり、常に法人内は連携をとっており、利用者、家族、職員は安心して生活をしている。管理者を中心にユニットごとに独自性を出し、利用者、職員が和気あいあいと明るく楽しい雰囲気をつくっている。ユニット間の連携もうまく中庭の野菜づくりなど協力し、利用者の交流もしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と役割の意識を持ち、自覚すると共に、入居者の介護、支援に日々努力し取り組んでいる	主任会議やミーティングの時にみんなで読み上げて理念の確認をし実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の際には、地域のボランティアサークルの方に来所して頂き、入居者との交流に努めている	事業所の母体が自治会に加入している。地域のボランティアサークルが行事に参加され交流している。学校の運動会や音楽会にも出かけて小学生と交流したりする。時には学校帰りの子供が訪問してくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所に於いては、認知症の指導者がおり、地域での研修会や講習会を通し、理解、支援の協力等をお願いしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告と共に、入居者、家族、地域の代表、市の担当者、地域支援サービス担当者から様々な意見を頂き、サービス向上に活かしている	3ヶ月に1回開催しているが2ヶ月に1回の開催を検討している。会議では事業所からの報告や出席者からの意見をききサービスの向上にいかしている。委員の日程調整ができにくいときもあるが万障くりあわせ実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者、包括支援サービスセンターとの連携を密にし、実情やケアサービスの状況を伝え、協力関係を継続している	市町村の窓口は施設長になっており、何でも相談をし回答をもらっている。市社会福祉協議会の研修場所として事業所を活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設行為に伴うリスクを考え施錠をしている時もあるが、なるべくオープンにするよう心掛け、身体拘束をしないケアの取り組みを考え実践している	3ユニットのうち2階だけは入浴中だけ施錠するがほかはしていない。職員は利用者の状況を観察し安全を確保し自由にしていただけよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会、勉強会を通し、周知徹底している日中、入浴時には、全身観察をし、気をつけるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護等の制度については、理解し、該当者がいれば支援を行うことができる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、支援相談員、職員が立ち会い、十分な説明を行い、入居者や家族に理解、納得して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時には、状態や状況を話し、その際、意見や要望等も伺い反映するようにしている	利用者の変化や家族への要望があればすぐ利用者にかわって連絡をしている。それに対して家族の意見や思いを利用者に伝えている。職員は家族とも良い関係で家族の一員のように思ってもらえ、なんでも話し合える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り、ミーティング等で意見、提案は出してもらっており、その都度、全職員で検討し反映させている	ミーティングや主任会議において話したり、管理者から意見や提案を聞き出すようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの把握に努め、自己評価している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や自己研磨に対して支援に心掛けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県グループホーム連絡協議会に加入して連携を密にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とコミュニケーションをとり、傾聴しながら、早急に信頼関係を築き上げるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の考え、要望等を聞き、より良い方向に添えるよう努め、信頼関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のニーズを尊重しながら検討し、支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	能力に応じ、自立した日常生活を営む事ができるよう、入居者、職員が共に支え合っている関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時には、状態、状況を報告し、家族にも協力をお願いすることもあり、入居者、職員全員と家族との交流の場を設け絆を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人等来所の折には、又来所してくださるようお願いし、外出時には、家族の協力を得、支援に努めている	馴染みの美容院や買い物には家族の協力でおこなっている。外出の準備など支援をしている。友人の電話や面会を楽しみにされているので「次回もお願いします」と言葉かけに職員は気をつけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や相性、本人の意思の尊重に考慮した座席を考え、なるべくリビングで過ごして頂き、入居者同士の関わりを深め、支え合えるよう、声掛け、見守り、支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームでの生活が困難となった方が、サービス利用の終了となるケースがほとんどで、隣接する老健への転設、転院がほとんどで、経過は気になるも、関係は途絶えてしまう		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とのかかわりの中で、生活の様子、行動、会話から希望や以降の把握に努めている。 困難な場合は、かかわりの中での表情や態度をくみ取るよう努めている	利用者とかかわりから思いや要望を把握したり推測している。意思疎通が無理な方や、判断ができない方などは、相手の立場にたって聞いたり、家族と相談して実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、情報収集として、家族、本人からの聞き取り、それ以後も日常の会話からの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況、状態を見守り、観察し、把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族等の意向を聞き取り、看護師、職員とでサービス担当者会議を開き、それをもとに介護計画を作成しモニタリングを行っている	職員の日ごろのかかわりで気づいたことや、利用者、家族の希望をとりいれてサービス担当者会議を開き計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態、状況、変化や支援等を記録し、職員間で把握し情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしてより良いケアに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向、要望に応じた支援の取り組みを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、本人の残存能力を活かしながら安穏な暮らしができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する病院からの定期往診が3週間に1度あり、本人や家族等の希望される外来受診への支援も、家族へ協力をお願いしている	事業所の協力医の往診が3週間に1回ある。体調に変化があれば看護師より隣接する病院や家族への連絡があり対応が早く利用者、家族から安心されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に入居者の健康状態を報告し、連絡、連携を密に行い、看護師は法人内隣接病院とのパイプ役も兼ねており、適切な受診や早急な対応が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内隣接病院への入退院時の情報交換は、看護師を通し伝えられ病院側は平素から入居者の健康状態も把握し、早急な対応をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になる早い段階から本人や家族、支援相談員、介護職、看護師と話し合いを行い、本人家族の意向、要望を伺い、支援の方向性を決定しできる限りグループホームでの生活を継続できるよう支援している	利用者や家族の意向を早くから聞き、事業所のできることを、職員間で話し合い1日でも長く支援できるよう検討しながら対応している。協力医療機関との連携による支援もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応等の勉強会を行い、学習したものの、定期的な訓練が不足している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得、訓練を行ったり、マニュアルに基づき、他ユニットの連携、協力を求め協力体制を築いている	法人全体で消防署による防災訓練、非難訓練、消火訓練を定期的実施している。地域の方や自治会に協力をお願いしている。	夜間の人手の少ないときなどは、法人と連携した避難誘導となるでしょうが、できれば、利用者と一緒にその人にあわせた避難方法も日頃から身につけることをお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々感謝と尊敬の念を忘れず、尊厳を守るよう常に心掛けている	一人一人の人格の尊重などプライバシー保護について職員で、話しあって確認している。トイレ誘導の声かけなど充分注意をしておこなっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話で、職員に何人でも話して頂けるような関係作りに努めており、会話の件で、本人の思いや希望をくみ取り、自己決定して頂けるような言葉かけを行う		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、本人のペースと意思の尊重を重視しながらできる限りの希望に添えるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己にて身の回りの事ができる人は、本人に任せて、天候等の助言をする。 介助必要な人には、職員が本人に確認しながら手助けしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備ができる入居者と一緒に準備、片付け、畑で作った野菜の下ごしらえを行う、できない人は、本人の手の届く範囲でテーブル拭きをして頂いたりと協力をお願いしている	法人の厨房で作った食事を刻んだり、暖めて配膳するが利用者のできるところを一緒に行う。中庭でつくった野菜を洗ったり、きざんだりしたり、誕生会には家族も一緒に食事をすようお誘いをしてみんなで楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接施設の管理栄養士が献立を立て、食事摂取量は、チェック表に記録し、食事量や体重の変化がある時は、主治医に相談している 水分量は一日1000cc以上は飲んで頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、見守り、介助、口腔内のチェックを行っている。 毎晩職員が義歯を預かり(現在入居者全員)洗浄剤に浸している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗や、おむつの使用を減らせられるよう、排泄パターンとサインを見逃さず、トレイの声掛けをし誘導を行っている	利用者のパターンにあった排泄誘導をおこなうようにしている。また、ねたきりのかたが、トイレでの排泄支援までになりとてもよかった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつ時間に果物や、繊維質の野菜を使っての手作りおやつを提供、散歩や廊下歩行、適度な運動、腹部マッサージを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの個別入浴を行っている 入浴前には、バイタル測定を行い、健康状態を確認し、本人のペースで、希望に合わせての入浴を支援している	健康状態にあわせ希望のある方は毎日入浴している。嫌がる方は無理に入らずタイミングをみて入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活リズムができるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬について理解しており、服薬介助、確認を行っている 定期的な往診時には、症状の変化等を報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の身体状態や能力に合わせて発揮できるように、また、好きな事、楽しみな事ができるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	真夏と天候の悪い日を除き本人の希望に合わせて、公園や畑等散歩へ出かけている 本人、家族の希望で、家族の協力を得て、外出をしている	利用者の希望される外出は家族に連絡し協力しながら支援をしている。中庭の野菜畑にはよくでてユニットごとの野菜の手入れをしたり、近くの公園まで散歩にでかける。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在2名の方が、所持金の自己管理をされ、本人希望により、隣接内にある売店へ職員が同行し支払いをされる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力、了解も得て電話をしたり、取り継ぎなど支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、不快感を与えないよう配慮し、季節の花が途絶えないよう飾り付け、入居者の方と一緒に四季折々の壁掛け作りをしている	居間兼食堂は、広く見渡すことができ、ソファやテレビ、ラジオがおかれくつろいだり、踊ったり自由に動きまわられるスペースである。壁には季節でかえる共同制作の絵がかかげられて落ち着いた雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは2か所にソファを置き、テーブル席とテラス付近にも日向ぼっこができるよう養分に椅子が置いてあり、思い思いにゆっくりとくつろいで頂けるような空間作りに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方へ使い慣れた調度品や馴染みの物を持参していただくようお願いし、本人が安心し居心地良く過ごせるよう配慮している	ベットの高さが、利用者の希望にあわせて設置されて低いもので、家具や机、など整理されておかれている。また、洗面台が個々の部屋にあり便利よく、外の景色が見られる明るい部屋である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの中で活動の妨げとならないよう自由に動ける環境作りに工夫、配慮し、自立支援に努めている		